宗教新聞

発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940（代）
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2019
購読料（税込）
1部 500円
半年 3,000円（〒共）
年間 6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

伊弉諾神宮で御田植祭を斎行

神田に早乙女と児童の祈り

兵庫県淡路市

梅雨入り前の爽やかな風の吹く6月15日、兵庫県淡路市多賀にある伊弉諾（いざなぎ）神宮（本名孝至宮司）の御斎殿で、令和で初めての五穀豊穣を祈る恒例の「御田植祭」が斎行された。稲は10月の「抜穂（ぬいぼ）祭」で収穫され、稲束を伊勢神宮の神嘗祭に奉納するほか、伊弉諾神宮の祭儀で神前にお供えされる。

早乙女に助けられ苗を植える児童たち＝６月15日、兵庫県淡路市の伊弉諾神宮

神前に供える米を育てる「御斎田」（約２４０平方メートル）で田植えを行ったのは、白装束に赤いたすき、笠をかぶった早乙女姿の県立淡路高校（旧淡路農業高校、同市富島）の女子生徒や同宮いざなぎ會の女性ら18人と地元の保育園児ら13人。氏子や保護者らが見守る中、本名宮司が打つ太鼓の音に合わせ、早苗を数本ずつ手に取り、丁寧に植え付けた。ちなみに早乙女の早は稲のこと。

淡路島は近年、舌（ぜつ）を付けたままの銅鐸が発掘され話題になった。大切な神事の前、邪念を払うため鳴らされたのであろう。銅鐸は古事記で「サナキ」と記され、イザナギに通じる。本名宮司によると入れ子になった銅鐸と舌は男女の交わりを意味するという。

境内に夫婦大楠のご神木がある伊弉諾宮らしい。男は小さい舌で、女性の摩訶不思議な霊力を大事にするのが日本文化だと、宮司の話は尽きない。

同日は午前9時から神事が執り行われ、淡路神楽が舞われた後、拝殿前のしめ縄が張られた境内で、早乙女たちが苗を手に、「わかなへ　うえほよ…」と神職らが歌う「古謡御田植唱」に合わせて、田に稲を植える喜びを表した「御田植踊」を奉納した。

その後、神職と氏子がかごで担ぐ早苗を先頭に、列を組んで神宮近くの御斎田に移動。代かきが終わった御斎田で、最初に本名宮司が苗を植え、続いて早乙女が横一列に並び、目の前に張られた縄の目印を目安に、宮司の打つ太鼓の音に合わせて「イセヒカリ」の苗を植えていった。

イセヒカリは三重県の伊勢神宮の神田で発見された、コシヒカリが自然交配して出来た突然変異種で、神聖な稲として神事などで使われている。

コシヒカリより背が低く、風雨に強いという。

苗は本名宮司が神事としてもみをまき、苗代で大切に育てられてきたもの。昔は一般的だったが、田植え機が普及した今では、農協の育苗センターなどで育てられた苗箱入りの苗を買うのが一般的になっている。

御斎田のほぼ半分まで植えたところで法被姿の児童らが田んぼに入り、早乙女に助けられながら、苗を植えていった。

同宮の御田植え神事は第二次世界大戦の影響で昭和15年以降途絶えていたが、古老らの記憶をもとに平成3年から再現されている。児童らはカエルやオタマジャクシを発見して歓声を上げ、見守る老婦人たちは昔の田植えを思い出し、懐かしそうに話し合っていた。

新元号の令和について宮司に聞くと、「令は人々が神に祈りを捧げる姿の象形文字。そんな人を令夫人、令息などと呼んでいる。縄文人は単なる狩猟採集ではなく、三内丸山遺跡のように栗の栽培もし、海上交易も盛んだった。漆や螺鈿は日本から大陸に伝わっていた。日本文化の素晴らしさを再評価すべき」と意気軒昂だった。

最初に御田植をする本名孝至宮司

川崎大師で大般若経転読会

600巻を一気に転読

神奈川県川崎市

6月21日、神奈川県川崎市の真言宗智山派大本山金剛山金乗院平間寺（川崎大師、藤田隆乗貫首）で大般若経転読会が厳修された。

最初に集まった参詣者に僧侶の糸井龍祐師が法要の準備法話をした。「最近物忘れが多い、人の名前が出てこないと言う人がいるが、忘れるのはある意味必要なことだ。嫌なことは忘れてしまったほうがよく、逐一覚えていたら大変だ。そう考えると忘れることが出来るのが有難い」

午後1時、太鼓の音が鳴り導師、式衆が入場。大般若経転読会が始まった。中島隆栄執事により加持および授けが行われ、次に心願成就の為に合掌して本尊の宝号「南無大師遍照金剛」を参詣者と共に唱えた。その後表白を読み上げ、導師藤田隆乗貫首が経を唱えた。

掛け声がかかり、大きな太鼓の音と主に僧侶たちの威勢のいい声と共に転読が始まった。導師は転読が行われている間に護摩を焚き、護摩供養を執り行う。転読が終わり、家内円満、家内安全、交通安全、天下太平、五穀成就、復興成就、心願成就のために祈祷が捧げられた。太鼓の音が大きく鳴り響く中、導師と式衆が般若心経を共に唱えた。

最後に式衆が「南無大師遍照金剛」「般若守護十六善神」などと唱えながら祈祷を捧げ、大般若経転読会は滞りなく厳修された。

大般若経は、正式な名前を「大般若波羅蜜多経」といい、６００巻にもおよぶ唐の玄奘三蔵（三蔵法師）訳の大部の経典。小品般若、大品般若、金剛般若、文殊般若、秘密般若、理趣般若などさまざまな般若経典の集大成で、玄奘がインドから６30年頃に持ち帰ったものを4年の歳月をかけて漢訳したもの。

大般若経転読会では、この大般若経６００巻を、12人の僧侶が各50巻、1巻ずつ扇をひろげるように空中にかざし、声高らかに経題が転読され、家内安全、交通安全、心願成就などを祈願する。転読とは、経本を1巻1巻正面で広げ流し読むことで、それによって読誦したことにするもの。主に天台宗、真言宗、禅宗（曹洞宗、臨済宗など）で行われる。

護摩供養は真言密教独自の秘法。護摩木を焚くことで煩悩を焼き、心願を仏に伝える。護摩木は不動明王の分身で、不動明王を表す梵字が記されている。また護摩札には願主の名前と、願いが記され、不動明王により自身が清められ、また願いが成就される。護摩供養では一体ずつ護摩札を護摩の火焔を通すことによって、不動明王の法力を宿し、それを家に持ち帰ることによって、家が不動明王の守護を受けるようになる。

川崎大師の歴史は崇徳天皇の御代に遡る。武士の平間兼乗が無実の罪により生国尾張を追われ、諸国を流浪した後に川崎の地に住み、漁猟で生計を立てていた。そういう中でも兼乗は深く仏法に帰依し、弘法大師を崇信していた。

ある日、兼乗の夢枕に現れた高僧のお告げの通りに、海に出て光り輝く場所に網を投じると、一躰の木像が引き揚げられ、それが大師像だったという。その後高野山の尊賢上人が諸国遊化の途上またま兼乗のもとに立ち寄り、大師像と霊験奇瑞に感泣し、兼乗と力をあわせ、大治3年（1128）に一寺を建立した。そして、兼乗の姓・平間をもって平間寺（へいけんじ）と号し、本尊を厄除弘法大師と称し奉ったのが、今日の大本山川崎大師平間寺の始まり。

大般若経転読会＝6月21日、神奈川県川崎市の川崎大師

社説

宗教の中心でAIを叫ぶ

今AI（人工知能）は、少子高齢化、労働力不足の日本の救世主のように期待されるかと思えば、人間から仕事を奪ってしまうと恐れられたり、評価が大きく揺れている。そうした中、日本で第二次AIブームが起きた1980年代、エンジニアとして「第五世代コンピュータ」のプロジェクトにも携わっていた西垣通東京大学名誉教授が昨年、『AI原論 神の支配と人間の自由』という面白い本を出している。

その結び近くで西垣氏は「AIの宗教的背景についての洞察力を得れば、『やがてAIロボットが人間のように自律的に、主体として賢い判断を下せるようになる』などといったグロテスクなお伽噺に惑わされることはなくなる」と述べている。

人間が不死になる？

西垣氏は自動運転などAIの応用を否定しているわけではない。むしろ過疎地などでの交通手段や人間の過誤による事故を防ぐため、開発を進めるべきだという立場である。

問題は、シンギュラリティ仮説を提唱したアメリカの発明家レイ・カーツワイルのようなトランス・ヒューマニストが、人間の脳をコンピュータに取り込むと、肉体は消えても思考や記憶は残るから人間は不死になると唱えだしたことである。シンギュラリティとは特異点のことで、２045年には人間より賢いAIが出現すると彼は予言している。人間は科学技術によってどんどん進化していくという楽観主義である。

他方、『サピエンス全史』が世界的なベストセラーになったイスラエルの若い歴史家ユヴァル・ノア・ハラリは次作の『ホモ・デウス』で、21世紀にエリート階級の人間は神のように進化すると言っている。しかし、圧倒的多数の無用者階級とに分かれてしまうので、将来に対し宗教的背景を述べている。

とに記述されていて、正確な推論によって真理にたどりつける。そして、選ばれた人間だけが、ロゴス（神の御言葉）を解釈しつつ正義の実現をめざすことができる。…したがって、『絶対知すなわち神の知』という公式のもとで、これを実現する汎用AIという存在さえ位置づけることが可能になる」とAIの宗教的背景を述べている。

躍的な科学技術の発展をもたらしたのだが、同時にそれ以外の多くの文化と自然を破壊してきた。文化多元主義など戦後の現代思想は、その反省から生まれてきたものである。ところが、あえてそれを無視した素朴実在論にもとづいて、AIがAIを作るようになると人間を超えるというのがトランス・ヒューマニズムである。

そこで西垣氏は日本の役割として、「AIという仮面をかぶった世界支配を批判的に相対化しつつ、人間の生きる力を根源的に高める活路を切り開くこと」を提唱している。

一つになる知恵

ロボット工学のパイオニアで若者たちが夢中になるロボット・コンテストの生みの親、森政弘東京工業大学名誉教授は『仏教新論』という興味深い本を書いている。ロボット制御から自在学を究めるなかで禅に出会った森氏は、深い学びと体験から仏教の特徴を「一つ」に見ている。そして、心と体、自分と行為、自分と自然とが一つになるという観点から仏教の教えを説く。

これは、ギリシャ哲学と融合したキリスト教のロゴスの知とは対極にあるもので、身体的な知と言えよう。禅の三昧の境地など言葉では説明できない。それゆえ、学び以上に体験が重視されている。釈迦が発見した宇宙の法則に自分を近づけていき、最後には一体化することで、主体と客体の別がなくなるのである。分ける理性とは異なる知の道を、東洋世界は育んできたのである。その知こそがAIを生かすことができるのではないか。

確かにそうした西洋思想が飛躍的な科学技術の発展をもたらしたのだが、同時にそれ以外の多くの文化と自然を破壊してきた。文化多元主義など戦後の現代思想は、その反省から生まれてきたものである。ところが、あえてそれを無視した素朴実在論にもとづいて、AIがAIを作るようになると人間を超えるというのがトランス・ヒューマニズムである。

そこで西垣氏は日本の役割として、「AIという仮面をかぶった世界支配を批判的に相対化しつつ、人間の生きる力を根源的に高める活路を切り開くこと」を提唱している。

一つになる知恵

ロボット工学のパイオニアで若者たちが夢中になるロボット・コンテストの生みの親、森政弘東京工業大学名誉教授は『仏教新論』という興味深い本を書いている。ロボット制御から自在学を究めるなかで禅に出会った森氏は、深い学びと体験から仏教の特徴を「一つ」に見ている。そして、心と体、自分と行為、自分と自然とが一つになるという観点から仏教の教えを説く。

これは、ギリシャ哲学と融合したキリスト教のロゴスの知とは対極にあるもので、身体的な知と言えよう。禅の三昧の境地など言葉では説明できない。それゆえ、学び以上に体験が重視されている。釈迦が発見した宇宙の法則に自分を近づけていき、最後には一体化することで、主体と客体の別がなくなるのである。分ける理性とは異なる知の道を、東洋世界は育んできたのである。その知こそがAIを生かすことができるのではないか。

灯

「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。勝利を得る者には、わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちょうど、わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についたのと同様である。耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい』」（黙示録3：20―22）

父祖アブラハムは、通り過ぎようとされる神の使いを呼び止め、家に来てくださることを願った。その招きに応えた神の使いは、その家に留まり、時にふさわしい神のことばを伝えた。アブラハムはそのことばを受け入れ、神の摂理を進める責任を担った。

それから二千年後にも、通り過ぎようとした神の子イエスを呼び止め家に招いた貧しい弟子がいた。

創造主なる神様は人類の行くべき方向を示される。人類が暗闇の中であえぐ時、燈火をかかげた使いを送って下さる。ただ、通り過ぎようとされる神の使いに気付き、呼び止め、迎え入れることができるかは、私自身にかかっている。（1）

天地

6月15日、淡路島の伊弉諾神宮に行った帰り、２０15年に発掘され、話題になった松帆銅鐸を見ようと、南あわじ市滝川記念美術館玉青館を訪ねた。松帆銅鐸は7個がまとまって発見され、さらに6個の中に、吊り下げて鳴らすための青銅製の舌（ぜつ）が入れ子状態になっていたことで、銅鐸の使い方が明らかになったのである▼美術館に展示されていたのはレプリカで、3個が紐に吊るされていて、鳴らしてみることができた。何らかの儀式の始まりに鳴らしていたのであろう。古代国家形成前の風景で、国産み神話の淡路島にふさわしい▼ところで玉青館というのは、日本画界の第一人者、直原玉青（じきはらぎょくせい）画伯の絵画が展示されているからで、それがメインである。玉青は岡山県赤磐市の生まれで、幼少年期を淡路島で過ごし、大阪で画業の研鑽を積み頭角を現した。その後、南画の真髄を極めるため黄檗宗の僧となり、やがて現代南画協会理事長に。１９８０年には島内唯一の黄檗宗寺院・国清禅寺を復興して住職となり、数十点の襖絵を描いた▼美術館の近くにある国清禅寺を訪ねると、玉青の養子になって寺と画業を継いだ住職に会えた。そこで聞いた玉青の痛快人生はいつか紹介したい。豪雨のなかさぬき市の自宅から伊弉諾神宮に出かけると、不思議にお田植え神事の間は晴れ間さえ見え、再び豪雨のなか美術館へ。それでも行っただけのかいがあった。

本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間 ■氏名 ■郵便番号 ■住所 ■連絡先電話番号 ■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
宗教新聞社
〒一六〇―〇〇二二
東京都新宿区新宿5―13―2―4F
電話 03（3353）2940
FAX03（5363）5182
e-mailreligion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料 年間6000円（税、郵送料を含む）

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀
エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円(税込)
株式会社ヒカルランド
〒162−0821 東京都新宿区津久戸町 3-11
電話：03-6265-0852 FAX：03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本宗教の闇
室生 忠 著 四六判・520頁 定価：本体2,000円＋税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL078（882）9305 FAX078（801）0006

日本よ、蘇れ 日本神話の知恵
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代一」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
出雲井晶 著
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
（定価：本体2000円＋税）
日本国始め 饒速日大神の東遷
大野七三 著
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して總向の地に大和国を建国。その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36 鳳明ビル102A
TEL 03-3813-6344 Fax 03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

たま出版
www.tamabook.com
魔のJR中央線
自殺霊の撮影で判明したこと
齋藤 齋霊 著
十年の歳月をかけ、ついに自殺者の霊の撮影に成功。霊能者が書いた自殺防止の書。死んでも痛みは残るもの、自殺者の言い分、〝こんな筈では〟自殺をした状態で霊はさまよう、硫化水素自殺、政治家と自殺、自殺の多いJR中央線の謎を解く！
四六判158頁 定価1,365円（税込）
アシレス出版部発行
お近くの書店にない場合は下記へ 送料210円
〒229-0002 相模原市淵野辺本町2-17-14
TEL042（751）2558 FAX042（754）1818

新刊！
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土恵想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
私の生命（いのち）の復活
上橋 泉 著
四六判296頁（本体1500円＋税）
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15 ラ リュミエール1F
TEL 03-6657-9000 Fax 03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com

読みやすく、理解しやすく、真髄を極める達意の新訳
クルアーン やさしい和訳
監訳著・水谷 周 訳補完・杉本恭一郎
2019年7月第3版発行、資料増補、大改訂 定価2700円＋税
国書刊行会
〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL：03-5970-7421